

跳ね上がっている 道路側溝の蓋 危ない!!! 困っているのは住民

4月16日撮影



ここを車が右折
するのです。その度に蓋が...

開発業者の責任なの？
市の責任はないの？

「何とかして...」

守山2丁目地先のこの場所は、昨年宅地造成されたところ。新しく道路が整備されたものの、道路側溝の蓋が薄い鉄板であるために、車を通る度に、跳ねあがって、写真のような状況になっていました。「危険なので、改善してほしい」という声が寄せられています。

写真手前は、もともと空き地でした。宅地造成により「道路」となり、車の通行が可能となったものの、旧市道との間にある側溝には、蓋がありませんでした。『危ないのでも何とかして...』という市民の声に現地を確認し、すぐに市に改善を求めると薄い鉄板がおかれたものの、車の重みで鉄板はそりあがり、危険な状態。市は「溝は開発者が対応するもの...」というのですが、市の責任はないのでしょうか。現在、蓋が裏返しておかれています。夜間の通行はもちろん昼間でも危険な状態は解消されていません。

研修レポート

自治体シンクタンク？

東京と新潟の自治体.....



6月議会

6月議会は、4日開会、23日までの会期で行われます。主な日程は、以下の通り。要望・ご意見をお寄せください。

- 28日 議会運営委員会
- 31日 環境対策特委会
- 1日 総合計画策定特委会
- 2日 議会基本条例策定特別委員会
- 4日 本会議
(開会 議案提案)
議案熟読期間
9日 質問締め切り
- 15日 一般質問
- 16日 一般質問
- 17日 総務常任委員会
- 18日 文教福祉常任委員会
- 21日 環境生活都市経済常任委員会
- 23日 本会議
(討論・採決)

小牧議員は10日から12日まで、総務常任委員会の県外視察研修に参加しました(前号既報)。3日間の研修のうち2日間は、行政の政策形成の専門的役割を担う「シンクタンク」を設置している、東京都世田谷区と新潟県上越市を訪れました。小牧議員の研修レポートです。

「せたがや自治政策研究所」は平成19年に設置、大学教授(非常勤)を所長に副所長(担当課長)・研究員(区職員5人・特別研究員)の計8人で構成、予算規模は1500万円余りです。「地域活動を基盤にした協働社会のあり方」「世田谷の地域特性の析出」といったテーマを掲げて調査・研究、政策立案を支援しています。

地方分権の時代といわれる中で、流行のように「自治体シンクタンク」がもてはやされていますが、果たして必要なのでしょうか。「住民の福祉の増進を図る」(地方自治法第1条の2)という自治体本来の役割をはたすために、自治体職員として、どのような役割を果たすのが問われるということでしょう。大事なことは、「市民全体への奉仕者として、公正で効率的な行政サービスを提供する」という自覚と「住民の目線にたつていかに住民に喜ばれる仕事をやるか」という意欲の両方があることだと思えます。同時に、「分権」といいますが、国が自治体に法的に強制力をもつ仕組みをやめて、自治体が自主的な判断ができるように地方自治法を改めることも重要だと感じました。

新潟県「上越創造行政研究所」は、平成12年に市長発案で設立。所長は大学教授(非常勤)職員は4人、予算は560万円です。平成20年度は、直江津港をいかにしたまちづくり、「持続可能な都市構造の構築」などのテーマ。コンサルに頼りがちな事業計画の作成を、この研究所が中心となり進めているそうです。職員自身に、この市の将来を見据えた視点が培われた、とのことでした。

日本共産党
守山民報

守山市議会議員
こまき一美

党守山市くらし対策責任者
まつば栄太郎

TEL・FAX 582-3785
http://komaki.jcp-web.net/

TEL 584-3077
FAX 584-3466